

マルナカだより 秋号

総務省消防庁より 住宅用火災警報器の設置率等の調査結果

消防庁では、消防法により設置が義務付けられている住宅用火災警報器の設置率について、平成27年6月1日時点での調査結果をまとめました。

消防庁では、今後も未設置世帯に対する設置の働きかけや住宅用火災警報器の維持管理に関する広報を行っています。

全国設置率 81.0%
全国条例適合率 66.4%

設置率94.9%・条例適合率90.8%と共に1位は福井県で、神奈川県は設置率83.6%(14位)、条例適合率69.2%(17位)でした。神奈川県を詳しくみると、相模原市消防局管内は設置率93%で1位、箱根町消防

本部で条例適合率85%で1位となっています。

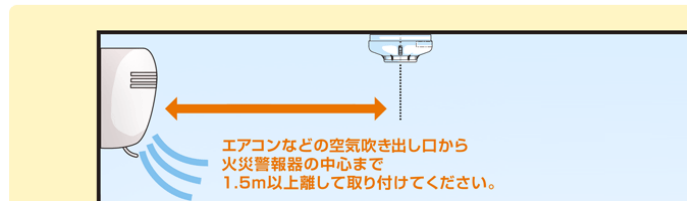
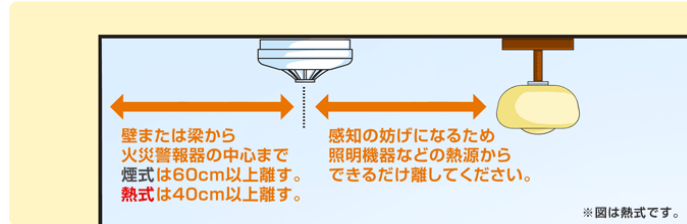
住宅用火災警報器には煙感知・熱感知があり、さらに電源タイプが電池式と配線式があります。特に注意したいのが電池式を使用している場合です。住宅用火災警報器が適切に機能するためには維持管理が重要で「いざ」というときに住宅用火災警報器がきちんと働くよう、日頃からのお手入れと年に2回など定期的に作動確認を行い電池切れを起こさないようにしましょう。

参考資料
◆総務省消防庁
8/21発表資料



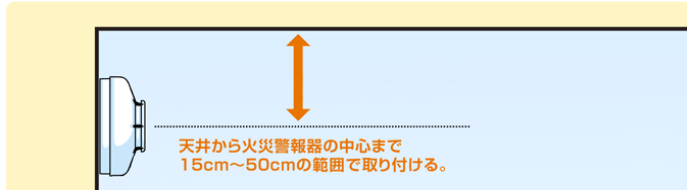
→ 天井面に取り付ける場合

壁または梁(はり)から60センチメートル以上離れた天井の中央付近に取り付けます。エアコンの吹き出し口や換気などからは、1.5メートル以上離すようにしましょう。



→ 壁面に取り付ける場合

天井から15～50センチメートル以内に住宅用火災警報器の中心が来るように取り付けます。



減災行動 風水害への備え

近年、全国各地で大雨による被害が相次いでいます。平成20年にはごく限られた範囲に短時間に極めて大量の雨が降るいわゆるゲリラ豪雨が頻発し、大きな被害が発生しました。記憶に新しい今年9月にも長雨による大雨の影響で関東・東北各地に避難準備情報や避難勧告、土砂災害警戒情報などが発令され、鬼怒川の決壊で大変大きな被害が発生したばかりです。また、台風・低気圧や前線、寒気の流れ込みによる竜巻などの突風による災害は日本のどこでも発生する可能性があります。

風水害は地形による影響を大きく受けるため、過去に風水害が発生したことのある地域に住んでいる場合は、必ずハザードマップを確認して避難場所や避難経路などを把握しておきましょう。

風水害は事前に予測可能な事も多いため、最新の気象情報に注意して、早目に対策を取るようにしましょう。

避難する時には

- ◆危険が迫る前に避難しましょう。
- ◆避難することを必ず誰かに伝えましょう。
- ◆必ず靴を履きましょう。サンダルや長靴はかえって危険な事もあります。
- ◆持ち物はリュックに入れる等、いざという時に両手が使えるようにしましょう。
- ◆水の中を歩くときは、側溝やマンホールなどにはまらないよう長い棒で確認する等、足元に十分注意しましょう。
- ◆強風の時、水の深さが膝上までであるとき等、無理して避難所へ行くよりも2階など高いところ

区分	発表される状況・内容
避難準備情報	災害時要援護者等、特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況のとき
避難勧告	通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況のとき
避難指示	●前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況のとき ●堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況のとき ●人的被害の発生した状況のとき

※気象庁ホームページの情報をもとに作成

にとどまる方が安全な場合もあります。

参考資料
内閣府ホームページ

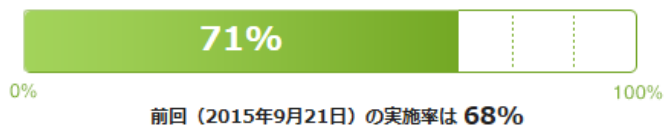
	発表される状況・内容
注意報	災害が起こるおそれのあるとき 16種類(大雨、洪水、強風など)
警報	重大な災害が起こるおそれのあるとき 7種類(大雨、洪水、暴風など)
気象情報	警報・注意報に先立つ注意喚起や警報・注意報の補完など
台風情報	台風の実況(中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速(10分間平均)、最大瞬間風速、暴風域、強風域と予報(72時間先まで))
土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する

省エネ住宅ポイント発行・予約申請受付中

- ・予算額に達し次第、申請受付を終了します。お早目に申請ください。
- ・書類に何らかの不備がある場合は、受付られない場合がありますのでご注意ください。

予算に対するポイント申請の実施率*

2015年9月28日受付時点



※予算(905億円)に対して、事務費(予定含む)および予約・審査中のポイントを含めて集計した概算値です。

日頃のご愛顧に感謝して今年も開催!!

第6回 マルナカまつり2015

10月25日(日)

午前10:00～午後3:00

大人気の木工教室に縁日屋台。今年は移動カーペン屋さんが新登場!!

ゲームコーナーは10円で遊べる射的にバスケのフリースロー。今年も大行列間違いなし♪

ショールームは【えらべるワークショップ】【ハンドメイド雑貨販売】やりたい事・欲しいものはお早めに!!

営業アウトレットブースでは各メーカーの最新機器の展示や限定の成約特典もあります。掘り出し物も見つかるかも?この機会にお得にゲットしましょう。

ご家族で楽しめるイベントです。ぜひご来場ください。



(株)マルナカホーム

〒223-0057

横浜市港北区新羽町896

TEL 045-547-3434

FAX 045-545-9935

http://www.marunaka.tv/

ご用命の方はフリーダイヤルへ
フリーダイヤル

0120-28-45-28

どんなに小さなことでも遠慮なく御相談下さい 鈴木

11月5日は津波防災の日



しんじょう君
浜崎市2013#337

ちっちゃいおっさん
©UPRIGHT

ふなっしー
©ふなっしー

くまモン
©2010熊本県くまモン

きいちゃん
知事山県



わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くの方々にひろめるお手伝いをします。

平成23年の東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸を襲った津波によって多くの人命が失われました。これを受けて、津波から国民の生命を守ることを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、その中で毎年11月5日が「津波防災の日」と決められています。

ちなみに11月5日は、江戸時代(1854年)に中部地方から九州地方の太平洋沿岸に大きな津波被害をもたらした、『稲むらの火』のモデルにもなった安政南海地震の発生した日に因んだものです。

内閣府(防災担当)では、この「津波防災の日」を広く皆様にご存知いただき、津波対策についての理解と関心を深めていただくため、さまざまな取組を行っています。

『津波防災ひろめ隊』は、津波に対する防災意識を高める広報活動を行っています。

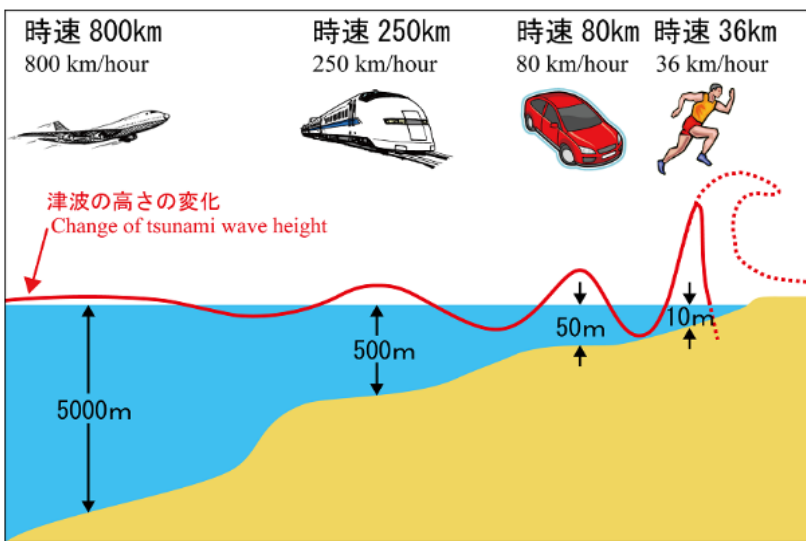
津波のしくみ

津波の「津」とは、船着場や渡し場を示す港を意味します。すなわち、「津波」とは津(港)に押し寄せる、異常に大きな波です。津波は、海底で発生する地震に伴う海底地盤の隆起・沈降や海底における地滑りなどにより、その周辺の海水が上下に変動することによって引き起こされるものです。発生した海水面の動き(上下動)が特に大規模なものであれば、沿岸に達すると破壊力の大きな大津波となります。

津波の伝わる速さ

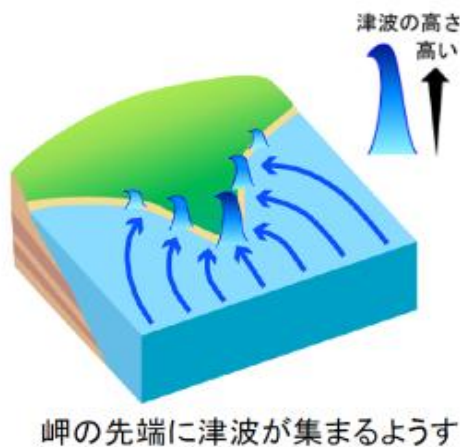
津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ後から来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。

水深が浅いところで遅くなるといっても、オリンピックの短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



地形による津波の増幅

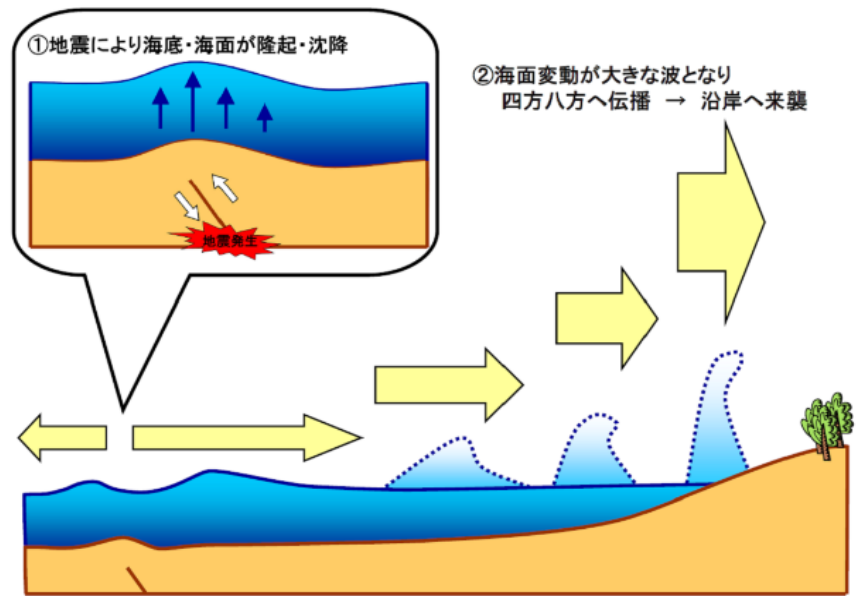
津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。さらに、津波が陸地を駆け上がる(遡上する)こともあります。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何度も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。



津波の発生

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向によっては、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。津波は引き波で始まるとは限らないのです。



津波防災のために 津波の心得

大地震はいつ起こるか分かりません。その時どうすればいいのかが日頃から考えておきましょう。

- ★ 家族と逃げる場所を決めておく
- ★ 自らの命を守ることに全力を尽くす

津波はすごいスピードで迫ってきます。津波が来たら何も持たずに各自が全力で高台へ逃げて下さい。

参考資料
内閣府ホームページ 《防災情報のページ》
《津波防災ひろめ隊サイト》
国土交通省 気象庁ホームページ